



# 不公平かつ感染リスク増

## 1面のつづき

都立高校入試で使われるスピーキングテストは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からも大きな問題があります。

同テストでは、全員がいつせいに大声を出します。プレテストでは感染対策としてマスクをし、クラスの半数ずつ行うことになっていますが、テストの15分間、窓は閉め切られます。

文部科学省が出している衛生管理マニュアルは、「感染症対策を講じてもおお感染のリスクが高い学習活動」として「近距離で一斉に大きな声で話す活動」をあげ、感染レベル3（ステージ3と4の地域）では、こうした学習活動を行わないよう求めています。

## 都立高入試に導入 ベネッセのスピーキングテスト

現場の教員がもっとも懸念するのは、採点の公平性です。都内の公立中学校の教員はいいいます。



東京大学教授 英米文学 阿部公彦さん

「生徒のスピーチなどの実技テストを一緒に教えるALT（外国語指導助手）と2人で評価しても、判定はそれぞれで違います。8万人を公平に採点することなどできるはずがありません。公平でない採点で、高校の合否が左右されることはおかしい」

ベネッセは、通信教材の有料オプションとして、オンラインスピーキングを行ったり、その教材を学校や塾に販売したりしています。

「ベネッセがテストをやるなら、対策はベネッセがいいだろうと普通に思います。一企業をもう

## テストで英会話の力つかない

けさせるテストを入試に使うのは不公平です。大学では中止になった不公平な入試を都が行うのはおかしい。やめるべきです。東京都目黒区の中

学2年の保護者(43)は、こう話します。学校情報の登録や生徒の登録の確認も中学校の教員が行います。先述の教員はいいいます。「事前の準備も中学校に丸投げされ、膨大な事務作業に神経をすり減らします。それだけの労力や時間、お金をかける意味はまったく見いだせない。働き方改革にも逆行します」

対策も受験産業が担うのは、公平ではありません。問題形式を知っている人と知らない人で差がつき、対策の有無や貧富の格差が入試に影響します。

採点の基準で「母語の影響を受けていること」が減点対象となっているのもおかしいです。「ネイティブ並みの発音」などが求められるのかもしれないかもしれませんが、どの国の英語も母語の影響があり、中立の英語など存在しません。おかしくても基準をつくらなければ、差をつけれないのがスピーキングテストの難しさです。こんなテストは撤回すべきです。

あなたは、昨日あなたに起こった出来事を留学生の友だちに話すことになりました。相手に伝わるように英語で話してください。(準備時間30秒/解答時間40秒)



1. 試験について 中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J) (東京教育委員会主催、株式会社ベネッセコーポレーション委託)
2. 実施日時 令和3年9月15日(土)
3. 本校ホームページ

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)保護者同意書 「成績提供同意」、「受験者向けサイト利用規約」、「個人情報取り扱いについて」

同意します  
年 組 生徒氏名 ( ) 印  
保護者名 ( ) 印

都内のある学校で中学3年生の保護者が提出する同意書。ベネッセへの個人情報の提供について、保護者はよくわからないまま同意を迫られます。